審 査 講 評　2023 日本ストックホルム青少年水大賞審査部会　部会長　谷田 一三

「日本ストックホルム青少年水大賞」は、20歳以下の高校・高等専門学校の生徒または生徒の団体による水環境に関する調査研究活動および調査研究にもとづいた実践的活動を表彰するもので、その受賞者は毎年夏にストックホルムで開催される国際コンテスト「ストックホルム青少年水大賞（SJWP）」に日本代表として参加することになります。

応募状況と審査経緯

2023日本ストックホルム青少年水大賞の応募数は12件ありました（下表）。審査は, 8人の審査委員からなる日本ストックホルム水大賞審査部会において、審査基準に準じて厳正に行われました。この審査基準は、妥当性（水環境がかかえる重要な問題に的確に取り組んでいるか）、創造性（問題提起や問題解決の方法、実験・調査やデータ解析の方法に創造性が見られるか）、方法論（明確な問題意識のもと作業計画が適切か）、テーマに関する知識（既往研究のレビュー、参考文献、情報源、用語の理解などが十分か）、実用技術、報告書の6項目からなります。

審査は2段階で行いました。まず、各審査委員が行った書面審査の結果を持ち寄って対面およびWEBで審議し、二次審査に進む4チームを選びました。次にこの4チームについて東京都内で、英語による要旨発表、そして研究内容のパワーポイントを用いたプレゼンテーションを聴取したうえで、個別に質疑を行うとともに、審査委員による慎重な協議を経て「日本ストックホルム青少年水大賞」の授賞校を選定しました。

審査結果と授賞理由

○大　　賞：沖縄県　沖縄尚学高等学校　BiO_2 グループ

「2023年日本ストックホルム青少年水大賞」に輝いたのは、沖縄尚学高等学校　BiO_2グループ（代表：佐渡山 風羽、新城 有希葉　指導教員：大城 与志仁）「メヒルギによるバイオレメディエーション」です。

適切に処理されていない工場排水や生活排水などの排水による環境汚染は世界各地で問題となっています。沖縄尚学高等学校のBiO_2グループは、廃水処理率が低い地域にはマングローブが多く生息することに着目し、マングローブの一種であるメヒルギを用いたバイオレメディエーションに取り組みました。そして、メヒルギの黄朽葉には銅や亜鉛が濃縮していることを確認し、さらに落葉した黄朽葉を回収する方法についても考案している点が高く評価されました。今後、重金属のみならず懸濁物質など他の水質の観点からもメヒルギの役割を定量的に評価することができれば、更に有意義な研究になると思われます。